



元気に遊ぶ牛久ひかり保育園の子どもたち

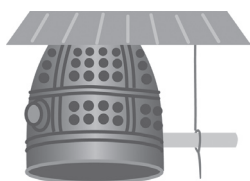


昨年4月に開園したつつじが丘ふたばランド保育園

牛久市のまちづくり

昨年4月、つつじが丘ふたばランド保育園、牛久ひかり保育園が開園しました。これにより、新たに約320人の園児の受け入れが可能となり、市内の待機児童の減少と、安心して子育てのできる環境がさらに充実しました。

小中学校では、平成20年度に岡田小学校校舎の耐震化工事を終え、昨年から向台小学校校舎の耐震化工事を2カ年事業で行っています。これらの計画的な工事により、市内小中学校の耐震化率は現在74.6%（県内上位5位）となり、「安全安心」がより一層推進されています。



一方、4月に牛久クリンセンター敷地内のバイオディーゼル燃料（BDF）製造施設が運転を開始。市内の家庭や学校などから集めた廃食用油がこの施設で精製され、市公用車の燃料として使用が開始されました。このように、菜種の栽培に始まり、車の燃料に至る地域循環サイクルが確立し、本格始動しました。

安心して子育てできるまち

地域循環型社会が始動

市では、さまざまな施策・事業を通じて、「あたたかみのあるまち マイホームタウン牛久」を目指しています。ここでは、昨年の主な事業を振り返るとともに、今年予定されている事業の概要をお知らせします。

さまざまな事業を実施



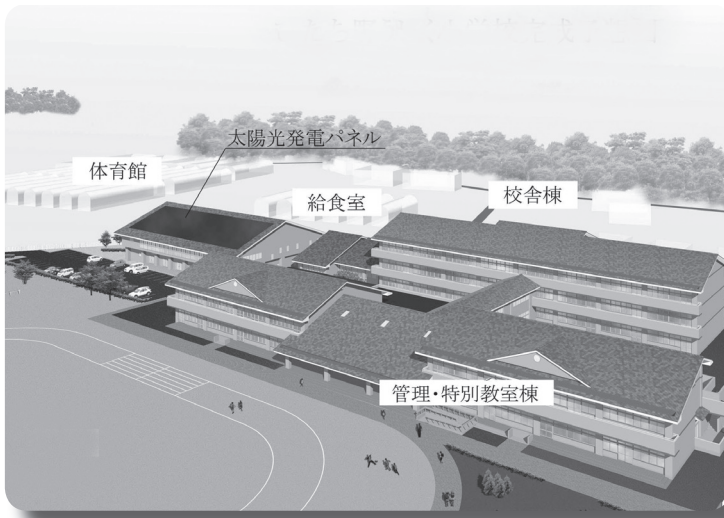
初めて開催された「うしく菜の花まつり」

4月には牛久消防署東部出張所（久野町）が運用を開始、児童クラブでは土曜日に児童受け入れを開始しました。7月には、市内4事業者7店舗でレジ袋無料配布の中止、官民協働の「牛久市暮らしの便利帳」を発行。11月には女化青年研修所に女化アートフィールドがオープンするなど、市民の皆さんに身近な事業が多く実施されました。



役立つ情報が満載の「牛久市暮らしの便利帳」

複合的なコミュニティ施設へ生まれ変わる
ひたち野うしく駅前「ひたち野リフレビル」



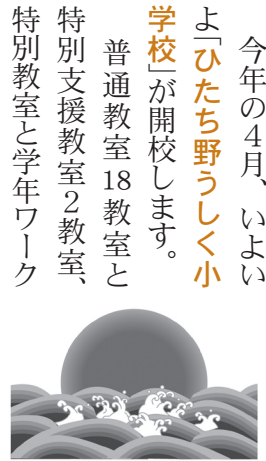
4月に開校予定のひたち野うしく小学校(完成予想図)

また、ひたち野うしく駅前をにぎわいのあるコミュニティにするため、市では「**ひたち野リフレビル**」を購入し、複合的なコミュニティ施設として、4月オープンを目指して整備しています。

このビルは地上6階建てで、1階には市役所出張所や図書館出張所、子育てをサポートするため保育園の分園が入り、地域の中核を担う予定です。

今年4月、いよいよ「**ひたち野うしく小学校**」が開校します。

普通教室18教室と特別支援教室2教室、特別教室と学年ワークスペース(多目的教室)、管理諸室などが整備され、体育館と校舎の一部には、環境に配慮した太陽光発電設備が整備されます。開校後には、屋内型プールなども順次整備され、地域の皆さんに開放される予定です。



発展する牛久のまち

ゆ

く

年

また、平成23年度完成を目指すし、**小坂城跡を城址公園**として整備し、いざというときには防災広場になるようにする事業も始まっています。

そのほかにも、「**ゲリラ豪雨**」の時期などに備え、市内の浸水被害を解消していくため、雨水管の整備や入れ替え工事などを継続して進めていき、集中豪雨からまちを守ります。

今年3月末には牛久駅東口に続き、西口にもエレベーターが完成します。これにより**交通バリアフリー**化が実現し、身体障がい者や高齢の方も駅の利用が便利になります。

文化運動広場は、3月末までに天然芝生化整備工事が完了する予定です。芝生の育成期間の後、7月以降に使用開始が予定され、サッカーの公式試合やグラウンドゴルフ、各種レクリエーションなどでの利用が可能となります。

今年3月末には牛久駅東口に続き、西口にもエレベーターが完成します。これにより**交通バリアフリー**化が実現し、身体障がい者や高齢の方も駅の利用が便利になります。

文化運動広場は、3月末までに天然芝生化整備工事が完了する予定です。芝生の育成期間の後、7月以降に使用開始が予定され、サッカーの公式試合やグラウンドゴルフ、各種レクリエーションなどでの利用が可能となります。

みんなにやさしいまち



く

る

年

※上記に挙げたものは一部です。市では、ほかにもたくさんの施策・事業を進めています。今後も広報うしくなどで順次お知らせしていきます。



牛久駅西口エレベーター(完成予想図)

牛久消防署西部出張所跡に、今年4月、(仮称)**西部生涯学習センター**(城中町)がオープンし、12月以降には**向台小学校校舎の耐震化工事**が終了するなど、さらに住みやすいまち「牛久」を目指しています。

さらに住みやすいまちへ

